

# 川内港

## 鹿児島県土木部港湾空港課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

☎099-286-2111(代)

URL : <http://www.pref.kagoshima.jp/infra/port/minato/sendai/index.html>



## 1. 概況

### 〈歴史の古い港〉

川内港は、鹿児島県北西部に位置する重要港湾であり、一級河川川内川の河口に位置する河口港である。川内川は、その源を宮崎県、熊本県の一部に発し、鹿児島県北部を横断する九州有数の河川の一つであり、古くから南九州の産業・文化の発展に寄与してきた。特に河口右岸の京泊は奈良・平安時代には坊之津、博多津とならんで九州三津の一つと称され、京泊の地名が示すように、京都・奈良方面への海上交通の基地として、また唐貿易の重要港として繁栄していた。河口の北部海浜は当時の名残として、現在でも唐浜の名で呼ばれている。

### 〈大規模な港湾の建設〉

昭和22年に地方港湾に指定され、京泊地区に近海漁業の拠点基地として荷揚場等が整備されてきたが、背後地域の開発・振興を図るために大規模な港湾施設を整備し、河口部に広大な工業地帯を造成することが計画された。昭和33年には港湾計画を策定し本格的な港湾整備が進められ、船間島工業用地が完成している。

昭和45年5月には重要港湾に指定され、鹿児島県北西部の流通拠点・開発拠点としての役割を担うとともに、昭和47年には港湾計画が新規に策定され、現在では京泊地区の30,000DWT級外航船が接岸可能な水深12m岸壁1バースをはじめ、唐浜地区に岸壁(-7.5m)1バースを供用している。

このような港湾整備が進むのと並行して、昭和62年には関税法上の開港指定、平成11年4月に植物防疫港指定を受けるなど、外国貿易港としての機能が整えられ、輸入チップ船等の外航船も入港しており、平成30年における港湾取扱貨物量は外貿96万トン、内貿44万トン、計140万トンに達している。取扱貨物の主な品目としては、外貿は、主に輸入チップを取扱っており、内貿については移入が砂利・砂、木材チップ、移出が紙・パルプや砂・砂利を取扱っている。

また、平成16年4月から韓国釜山、平成28年9月から台湾との間にコンテナ定期航路が就航しており、年間約2万TEUを取扱っている。

### 〈成長する川内港〉

本港の背後には、薩摩川内市を中心とする2,040km<sup>2</sup>の広大な背後圏を有しており、中越パルプ工業川内工場や九州電力火力・原子力発電所、LPG基地等の産業基盤やエネルギー基

盤施設等が立地・操業している。このほか、南北に縦走している国道3号線に加え九州新幹線も開通し、南九州西回り九州自動車道 鹿児島—川内間が開通し、鹿児島市内方面とのアクセスが向上、また、川内—阿久根間も新規事業化され、今後は熊本方面とのアクセス性も向上する見込みとなっている。

このような状況の中、東アジアと日本を結ぶ物流拠点、また、地域経済を支える産業基盤として、川内港が地域の経済社会の安定した発展に貢献できるよう将来像「県北西部地域の産業の競争力強化を支え、アジアとともに成長する川内港」の下、川内港の特性や優位性を活かしたみなとづくりを目指し、令和元年11月に港湾計画を改訂したところである。

改訂した港湾計画では、コンテナや林産品等のバルク物流機能の強化を図り、背後地域の国際競争力強化のため、また、災害時の背後地域・離島地域への緊急物資等の海上輸送拠点として、唐浜地区に新たに耐震強化岸壁(-12m)、ふ頭用地を位置付けている。

また、川内港の利用促進を図るため、「川内港地域活性化協議会」や「次世代型林産品輸出システム検討会」などを設立し、官民一体となった取組を進めている。